OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	巻頭言 : UNIXの上のPDS小特集
Author(s)	下條, 真司
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1989, 74, p. 19-20
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65839
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻頭言
– UNIXの上のPDS小特集 –

大阪大学大型計算機センター
下條真司
shimojo@mars.ics.osaka-u

センターにワークステーションとともにUNIXが導入されてはや1年あまり, センターニュースのUNIX特集も3回目を数えることとなった.

その間月々の利用者もやっと20人を越える程度で, 本当にセンターにワークステーションが必要なんだろうかという疑問の声も聞こえる.

単なる計算機を利用してもらうだけのサービスならワークステーションは向いていない. わざわざセンターまで使いにきて, 共同で使わなければならないほど高い計算機ではないし, その上のソフトウェアはほとんどただ同然の値段で手に入るものばかりである(中には今回の記事で紹介されているart & common lispやpublissのように少々値が張るものもあるが). さらに, 電話回線などを通して利用しているのではビットマップディスプレイやマウスなどせっかくのユーザーインターフェースの恩恵に預ることができない.

しかし, ワークステーションをセンターに置くことの意義がいくつかある.

- ワークステーションと汎用機の機能分散に対応すること
  ワークステーションの登場によって汎用機の使われ方が大きく変わろうとしている. ワークステーションの能力はミニコンを軽く凌いでしまうため, ちょっとした計算は汎用機に頼らなくてもワークステーションで行なえるようになった. また, 汎用機やスーパーコンピュータの計算結果をワークステーションでグラフィック表示したりといった, より密な汎用機とワークステーションの連係プレイが要求されている.

  センターでもこのような要求に対応するため, ワークステーションを置き, 汎用機との連係プレイのあるべき姿を追求していかなければならない.

- UNIXの持つ文化の風をセンターにも
  UNIXは文化を持つといわれる. 確かにUNIXハッカーと呼ばれる人達やUNIXに惚れ込んで使っている人達, UNIXで生活している人達は独特の言語を持ち, 同じような生活習慣を持っている[1].

  それ以上にUNIX上には常に最新のアイデア, 機能を持ったソフトウェアが開発され, たくさんのUNIXマシンに移植されている. TEXしかり, X Window

[1] 夜遅いのが好き, 汚い格好をしているなど :-)

System しかり, GNU Emacs しかり, その他にも例をあげればきりがないだろう. これらのソフトウェアは開発者がただで他人に使用を許可するソフトウェア, つまり, *Public Domain Software (PDS)*である[2]. これらのソフトウェアがUNIX 文化の仲介者であることは間違いがない. 素晴らしいソフトウェアを多くの人に解放することにより, 技術を浸透させ, より高い技術を生み出そうとしている.

その昔, 計算機がまだ高価だった頃, その高い計算機を多くの研究者に安い値段で提供するため大型計算機センターが生まれた. 今計算機は安くなり誰でも手に入るようになった. 汎用機はいつのまにか過去の互換性の名のもとに新しい技術に目を向けなくなってしまっている.

いまや, できるだけ最新のソフトウェアを多くの人にできるだけ容易に提供するのが共同利用施設としてのセンターの使命の一つであると筆者は感じている. その受け皿としてのワークステーションであり UNIX である. 実際, PDS といっても, ネットワークでつながっていなければ手に入れにくいし, インストールするのも結構大変である. 計算機センターのワークステーションにインストールされていれば, 使ってみるのも簡単だし, PDS となればコピーして自分のワークステーションで使っても構わない.

- コミュニケーション手段としての UNIX
  上項とも重なるが, UNIX 文化の風の通りを良くするためのコミュニケーション手段を UNIX は提供している. JUNET という国内の多くの研究機関や企業を結ぶネットワークは UNIX マシンによって管理・運営されている. その上に, 電子メールやニュースなど広域のコミュニケーションが提供されている. これにより海外の人々との情報交換, ソフトウェアの流通などが迅速かつ容易に行え, 文化圏を広げる役割をしている. UNIX がなければ, ネットワークに参加できず, UNIX 文化圏に対して鎖国してしまうことになる.

今回の UNIX 特集は PDS(あるいはほとんど PDS)である優れたソフトウェア, GNU Emacs, Wnn, X Window System について, はじめて使う人を対象に簡単な解説をして頂いた[3]. また, その他に PDS ではないが, UNIX 上で使える文書処理ソフトウェア Publiss, 人工知能用言語及びエキスパートシステム構築ツールである Common Lisp & Art について解説をお願いした. この記事をきっかけにしてこれらのソフトウェアを利用され, UNIX 文化人の仲間入りをして頂ければ幸いである.

最後に PDS の精神に乗っ取り, ただでこの特集に寄稿された諸先生方に紙面の上ながら感謝の意を捧げたい.

---

[2]PDS の何たるかについては本センターニュースの山口英氏の記事を参照されたし

[3]この 3 つを同時に取り上げたのは理由がある. この 3 つのソフトウェアと JTEX により, UNIX 上の日本語処理環境が出来上がるわけで, 日本語を読み, 日本語の入力をし, 日本語のプリント出力を得ることができる. もちろん, 日本語で電子メールを読み書きすることも当然できる.